



NEW ASPECTS OF CZERNY

2台のピアノの午後

新しいチェルニー

TWO PIANOS PLAYED BY

TETSU MASHIKO

AND

MASAKI NISHIHARA

26 OCTOBER 2008 (SUN) 14H30
PIANO ART SALON, TSUKISHIMA TOKYO
PRESENTED BY OFFICE PCC

第一部

1. カール・チェルニー CARL CZERNY [1791-1857]

2台のピアノの為の速度練習曲 作品299b
ÉTUDES DE LA VÉLOCITÉ POUR DEUX PIANOS, OP. 299b

- I. PRESTO
- II. MOLTO ALLEGRO
- III. PRESTO
- IV. PRESTO
- V. MOLTO ALLEGRO
- VI. MOLTO ALLEGRO
- VII. MOLTO ALLEGRO
- VIII. MOLTO ALLEGRO
- IX. MOLTO ALLEGRO
- X. MOLTO ALLEGRO
- XI. PRESTO
- XII. MOLTO ALLEGRO
- XIII. PRESTO
- XIV. MOLTO VIVO VELOCISSIMO
- XV. PRESTO
- XVI. PRESTO
- XVII. MOLTO ALLEGRO
- XVIII. MOLTO ALLEGRO
- XIX. PRESTO
- XX. MOLTO VIVACE
- XXI. MOLTO ALLEGRO
- XXII. MOLTO ALLEGRO
- XXIII. MOLTO ALLEGRO
- XXIV. MOLTO ALLEGRO
- XXV. MOLTO ALLEGRO
- XXVI. ALLEGRO
- XXVII. PRESTO
- XXVIII. PRESTO
- XXIX. MOLTO ALLEGRO
- XXX. PRESTO VOLANTE

ピアノを学ぶ人ならば誰もが一度は取り組むもの、それは、チェルニーの練習曲集です。特に、30番練習曲(初中級)に始まり、40番(中上級)、50番(上級)へと至る教程は、ピアノの基礎技術の向上に不可欠のものとされています。そのいっぽうで、チェルニーの有用性を否定する流派もありますし、そうかと思えば、最近では、ごく一部の初期作品だけを誇大に評価する向きもあります。没後150年を経てもなお、チェルニーへの評価は定まらず、本格的な研究、検証、実演が待たれます。私たちは、或る幸運な偶然により、「2台のピアノの為の速度練習曲」として出版されていた古書(仏・ルデュック社旧版)を手に入れました。40番練習曲(「速度教本」作品299)の第1番から第30番までを第一ピアノとし、チェルニー自身が第二ピアノのパートを作曲したものです。かねてより「無味乾燥」と揶揄され続けてきた練習曲が、爽快無比でスポーティーな魅力に富む2台ピアノの楽曲に生まれ変わっています。

Second Piano

(Voir la Préface)

ÉTUDES DE LA VÉLOCITÉ

à l'usage DES COURS de Piano

composées pour
DEUX PIANOS

PAR

CH. CZERNY.

Op. 299.

Prix: 12f

NOTA: La Nouvelle Ecole de Vélocité, Op. 834, est également gravée pour 2 Pianos concertants.

A.V.

A PARIS, chez ALHONSE LEDUC, éditeur Rue de la Bourse, 2
Londres, R. Cocks (Belgique) Vienne, Diabelli.

ÉTUDES DE LA VÉLOCITÉ.

C. CZERNY Op. 299.

Produit par ALHONSE LEDUC, éditeur Rue de la Bourse, 2
Londres, R. Cocks (Belgique) Vienne, Diabelli.

DEUXIÈME PIANO

N° 1.

Second Piano

(Voir la Préface)

ÉTUDES DE LA VÉLOCITÉ

à l'usage DES COURS de Piano
composées pour

DEUX PIANOS
concertants

PAR
CH. CZERNY.

Op. 299. Prix: 12f

NOTA: La Nouvelle Ecole de Vélocité, Op. 834, est également gravée pour 2 Pianos concertants.

A.V.

A PARIS, chez ALHONSE LEDUC, éditeur, Rue de la Bourse, 2
Londres, R. Cocks (Belgique) Vienne, Diabelli.

第二部

2. エリアス・パリシュ＝アルヴァース 並びに カール・チェルニー (共作) ELIAS PARISH-ALVARS [1808-49] & CARL CZERNY [1791-1857]

グランド・ファンタジー・ブリランテ

—— ハープとピアノ 又は 2台のピアノの為の ——

(パリシュ＝アルヴァース 作品39 / チェルニー 作品512)

GRANDE FANTAISIE BRILLANTE

POUR HARPE ET PIANO OU DEUX PIANOS

(E. PARISH-ALVARS : OP. 39 / C. CZERNY : OP. 512)

カール・チェルニーは、ピアノ教則本の作曲家として、もはや説明の必要もない、あまりにも有名な存在です。ベートーヴェンの弟子にして、フランツ・リストの師匠であったチェルニーは、有名な教則本のみならず、オリジナルの本格的な芸術作品はもとより、当時のオペラや民謡に取材した編作、バラフレーズ類など膨大な数の作品を書き残し、その作品数は一千を超えていると言われています。ドビュッシーの「12の練習曲」の冒頭の例を挙げるまでもなく、後世の人間からは、賞賛されるよりはむしろ皮肉られ抑鬱されることの多いチェルニーに対して、私たちはひとまず従来の先入観を措いて、何よりもまず、彼が生粋のウィーンの音楽家であったことを、今一度よく認識しておきたいと思います。ウィーン生まれ、ウィーン育ちのチェルニーは、ハプスブルク帝国が、その最後の栄光と繁栄を謳歌した時代を生きました。歌曲王シューベルトやワルツ王シュトラウスの音楽と同様に、チェルニーの音楽もまた、この享乐的にして華麗なる音楽の都の空気と一体不可分のものです。チェルニーは、音楽における愉悦、華やき、洗練味を愛し、それらを誰もが自らの手指を以て体得し、いつでも好きなときに再現できるようにするための方便としてピアノの技巧の鍛錬があると位置づけていることは、各種のエチュードに寄せた作曲者自身の緒言によって明らかです。別の言い方をすれば、チェルニーの中では、エチュードだけが特殊なジャンルとして孤立していたのではなく、オペラや民謡を素材とする幾多の華麗なバラフレーズや、オリジナルの本格的なソナタ、シリアスな交響曲へと、一つの雄大な大河のように自然に連なりゆくものとして存在していたということです。そうである以上は、私たちもまた、ジャンルを問わず、チェルニーの全ての作品に取り組むほかにないと考えております。

このコンサートの後半では、ウィーンを代表するピアノの名手チェルニーと、ウィーンに定住していた世界的ハーピスト、パリシュ＝アルヴァースとが組んで書き上げた共作「グランド・ファンタジー・ブリランテ」を御紹介致します。エリアス・パリシュ＝アルヴァースは、ベルリオーズから「ハープ界のフランツ・リスト」と賞賛された、当時を代表する世界的ハーピストでした。イギリス生まれのパリシュ＝アルヴァースは、青年期にロンドンでニコラ＝シャルル・ボクサに師事し、ハープのヴィルトゥオーゾとして名を馳せ、欧州各地を演奏旅行したのち、最終的にウィーンに居を定めました。チェルニーがピアノパートを、パリシュ＝アルヴァースがハープパートを書いた「グランド・ファンタジー・ブリランテ」は、ハープとピアノのデュエットとしてはもとより、2台のピアノによっても演奏可能の由が初版楽譜の表紙に明記されています。この作品は、ラプソディックな構成を持ち、堂々たる序奏ののち、あでやかな装飾を施されたオペラのアリアが各々の楽器によって存分に歌い交わされたのち、少しずつ速度を増してゆきながら、目もあやな物騒たるフィナーレへと流れ込みます。絶え間なく流れ出す美しい印象的なメロディの数々は、マイヤベーア「悪魔のロベール」、ベルリーニ「夢遊病の女」、ドニゼッティ「アンナ・ボレーナ」、同「連隊の娘」などの名作オペラから採られたものです。ウィーンは、パリ、ロンドンと並ぶ欧州の音楽の中心地の一つで、世界中の音楽が集まる都市でした。ここでは、モーツァルトやベートーヴェンが愛されたことはもとより、イタリア・オペラやフランス・オペラも、時を置かずして紹介され、人々の圧倒的な人気を集めていました。1838年に発表されたこのあでやかな共作は、当時のウィーンのみならず、欧州の音楽界の一つの縮図と言うべき興味深い作品に仕上がっています。



ELIAS PARISH-ALVARS

* 演奏者紹介 * PIANISTS

益子 徹 (第一ピアノ) 1976年栃木県生まれ. 宇都宮大学卒業.
TETSU MASHIKO (PIANO I) 北英国王立音楽院 (RNCM) ピアノ伴奏科修了.

西原 昌樹 (第二ピアノ) 1972年岡山県生まれ. 上智大学卒業.
MASAKI NISHIHARA (PIANO II)

* お問い合わせは 090-8443-3927 川崎 に. e-mail は pccpiano@hotmail.com に.

* ウェブサイトを開設致しております. <http://www16.ocn.ne.jp/~pccpiano>
コンサート開催情報やライブCD販売情報等, 随時更新してお知らせ致します.



CARL CZERNY